

【報 告】

別府大学大学院文学研究科・食物栄養科学研究科主催 講演会・シンポジウム開催報告

本学大学院では、大学院の教育・研究の周知を計るために、2019年度から年に1回研究出版委員会を中心となって、講演会・シンポジウムを企画・開催しており、今年度は10月28日(土)に実施した。今年度の趣旨及び概要は以下のとおりである。

【趣 旨】

最近、新聞・テレビ・ネットで「AI」という文字を見ない日はないと言ってよいほど、AIについてのさまざまな言説が巷間に溢れている。今後、われわれはAIとますます深く関わっていくことが求められるだろう。

テクノロジーの発達は人間社会を大きく変えてきた。AIの登場で、今後社会はどのような影響を受けるかはまだ十分わかっていないが、革命的な変化をもたらすことも予想される。

また、昨今全国の大学の中には学生のレポート執筆、プログラミング等学修の場におけるAIの利用に制限を設けることを表明しているところが増えている。伝統的な学問研究の方法が、今後どう変わっていくかは未知数である。学問研究の方法が変われば、それに伴い、教育の方法も変わらざるを得ないだろう。

そこで今回の講演会・シンポジウムでは、第一にAIについての理解を深め、実用化されている具体例を知ることで、AIの可能性、ひいては社会の変化の可能性を考察すること、第二にAIが大学の教育・研究にどのように関わるかをさまざまな学問分野からそれぞれの専門家ならではの視点で検討すること、以上の二点を目的とする。

【概 要】

○テーマ「どうするAI—その可能性とこれからの社会」

基調講演：「ヒトを起点としたAIビジネスの取組みと、DX人材育成の可能性」

浦川 秀明 氏 (NTT 西日本 技術革新部 イノベーション戦略室 担当部長)

シンポジウム：

司会：田中 裕介 (文学研究科長・教授)

パネリストの報告

「人工知能は言語表現の手触りを感じるか？」 内山 和也 (日本語・日本文学専攻 教授)

「AIがもたらす日本史研究の可能性」 赤松 秀亮 (史学・文化財学専攻 講師)

「人工知能とひとのこころ」 西村 靖史 (臨床心理学専攻 教授)

「健康寿命の延伸に向けて」 大坪 素秋 (食物栄養学専攻 教授)

飯坂晃治教授の進行の下、田中裕介文学研究科長の開会の辞に始まり、その後講演者である浦川秀明氏の紹介及び講演が行われた。

浦川氏の講演は、AIについてさまざまな事例を挙げながら、その概念についてわかりやすく解説するものであった。参加者はAIの現状に対する理解が深まったと思われる。

休憩を挟んで行われたシンポジウムにおいては、まず文学、歴史、心理、食物など多彩な専門分野の4名の本学教員が、それぞれの専門に即してAIについて報告した。講演と報告によって聴衆は、AIの持つ可能性を具体的に知ることができた。

さらに、田中裕介文学研究科長の司会により、浦川氏とともに活発な意見交換が行われ、異なった視点からの興味深いアプローチが示された。

シンポジウム後、樋園和仁食物栄養科学研究科長による閉会の辞があり、講演会・シンポジウムが終了した。

参加者には、学内の教職員、学生だけでなく、一般からも多く、AIに対する関心の高さが窺われた。また、今回も動画を大学HPオープンエデュケーションルームで公開した。

以上のように、本学大学院文学研究科・同大学院食物栄養科学研究科の両専攻に所属する専任教員による知の集合として、統一したテーマのもとにシンポジウムを開催できたことは大変有意義であった。来年度も本学大学院主催の講演会・シンポジウムを予定している。